

第3学年 英語科 学習指導案

場 所 3年1組

対 象 3年1組 (男子8名 女子14名 計22名)

指導者 菊池 聡子

ALT Chen Shihao

1 単元名 PROGRAM 7 “What Is the Most Important Thing to You?”

2 単元について

(1) 生徒について

生徒は、概ね真面目に英語の授業に取り組んでいる。語彙の意味を問う問題や Yes/No で答えられるような一問一答の問いに対しては多くの生徒が積極的に挙手し、自分の考えを発表する。

一方で、まとまった英文を読んで、必要な情報をつかんだり、根拠や理由を答えるような、英文を深く読みとったりする活動では、問いに対する発言が消極的であったり、根拠強く取り組めない生徒もいる。昨年度の県学習定着度状況調査では、長文の内容を読みとり、必要な情報をつかんだり、話の展開を正しい順番に並べたりする問題では、他の領域の問題に比べ、落ち込みが見られた。

現在、新出文法を理解する学習や本文を読み取る学習の最終ステップでは、理解したことや読み取ったことをもとに英語を話す、書くなどの活動を行っている。学習課題が難しくなる最終ステップでは、4人グループで考えを交流しながら、グループの仲間と共に学習課題の解決に向かうという流れをとり、生徒同士の関わり合いの手立てとしたい。

(2) 教材について

本単元は、本当に意味のある国際協力をめざして、世界中でボランティア活動を行って途上国を支援し、また途上国のために働く意欲のある人材育成への取り組みを続ける国際協力師、山本敏晴さんの活動について学ぶ。そのうち、特に山本さんが取り組んでいる「お絵かきプロジェクト」を通して、アフリカや南太平洋の途上国の現実を見ると同時に、自分の国に夢や希望を持って生きる子どもたちの描いた絵に込められた力強いメッセージを通して、「自分にとって大切なもの」と外国の子どもたちのそれとを比べた時に広い視野で物事を見たり、国際協力とは何なのかを考えることのできる教材である。

また、言語材料としては、関係代名詞（主格）**who, which, that** が取り上げられている。関係代名詞を使えるようになることによって、「人」や「もの」について説明や描写する英語表現の幅を広げることができ、本単元のゴールである「子ども達の絵について説明することができる」ためには、重要で有効な文法である。

(3) 指導について

本単元のゴールは、この単元の新出表現や既習事項を使って、「お絵描きイベント」で子ども達が描いた絵について、自分の考えを交えながら英語で説明する（話す）ことである。この活動をするために、①絵や写真などを示しながら、物や人について説明する表現を理解する②キーワードをもとに、目線や声の大きさ、発音などに気をつけながら、聞いている相手に伝わるように話す③与えられた情報に「自分の考え」を加え、既習表現を使って話す、という練習のステップを踏む。これらのステップを経て、本単元でのゴールの活動が、話すこと〔発表〕（新学習指導要領）における「関心のある事柄についてその場で考えを整理して口頭で説明する活動」につながるようなものにした。

また、必要な場面ではペアやグループでの活動を取り入れ、自分と仲間との考えを交流することによって、より良い発表に向けて生徒の学びが深まると考える。

さらに、自己の学習を振り返る手立てとして、終末では、①この活動を通して、どんな英語表現を使えるようになったか、②自分達のグループ発表、あるいは他のグループの発表を聞いて、どんな点（発表の仕方や使った英語表現など）が良かったか、という2つの視点を与え、自己の学びの振り返りとしたい。

3 単元の目標と評価規準、指導計画

(1) 単元の目標

- ・関係代名詞の用法を正しく理解し、人やものについて説明することができる。
- ・山本さんの活動やその目的について読みとり、自分の考えや気持ちを英語で表現することができる。
- ・「お絵描きイベント」で子ども達が描いた絵について、自分の考えを交えながら英語で説明することができる。

(2) 単元の評価規準

コミュニケーション活動への 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
・間違いを恐れずに、学習したことを用いて、ペアやグループ内で英語を話そうとしている。	・関係代名詞を使って、人やものについて説明することができる。 ・教科書の内容や与えられた情報について、読み取った事実や自分の考えや気持ちを英語で表現することができる。	・山本さんや彼の活動に関する英文を読み、その内容を適切に読み取ることができる。	・関係代名詞の意味や用法、文構造を理解している。

(3) 指導と評価の計画（8時間）（太枠が本時）

時	学習内容	評価規準				評価規準
		関	表	理	知	
小学〇年	小学6年生にて、人物紹介の単元にて、she/heを学習済み					
1	シエラレオネの現状や山本敏晴さんの活動について知る。 単元のゴールを確認する。	○				・山本さんの活動やその目的について、関心を示している。 ・単元のゴールの活動を理解している。
2	関係代名詞の主格 who の使い方について理解する。		○		○	・関係代名詞 who の意味、文構造、用法について理解している。 ・関係代名詞 who を正しく使い、人について説明することができる。
3	関係代名詞の主格 which の使い方について理解する。		○		○	・関係代名詞 which の意味、文構造、用法について理解している。 ・関係代名詞 which を正しく使い、物について説明することができる。

4	関係代名詞の主格 that の使い方について理解する。					○	○	・関係代名詞 that の意味、文構造、用法について理解している。
5	P67を読みとり、山本さんについて who を使って説明する。					○	○	・あらすじや大切な部分を読みとることができる。 ・教科書の英文をもとにして、山本さんや山本さんが行っている活動について3文程度の英語で説明することができる。
6	P69を読みとり、子ども達が描いた絵に共通しているものは何なのかを考える。					○	○	・あらすじを正しく読みとり、彼らの描いた絵に共通しているものについて考えることができる。 ・子ども達の絵について描写する表現を理解している。
7	P71を読みとり、山本さんが「お絵かきイベント」を行う目的を考える。					○	○	・あらすじを正しく読みとり、「お絵かきイベント」の目的について考えることができる。
8 本 時	「お絵描きイベント」で子ども達が描いた絵について、英語で説明する。					○	○	・「お絵描きイベント」で子ども達が描いた絵について、自分の考えを交えながら英語で説明することができる。

4 本時の指導

(1) 目標

- ・「お絵描きイベント」で世界の子どもたちが描いた絵について、英語で説明しよう。

(2) 評価規準

評価の観点	A 十分満足できる状況	B 概ね満足できる状況	支援を要する生徒への手だて
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	・ペアやグループ活動において、伝える相手を意識した発音や目線、内容を目指して、繰り返し話す練習をしている。	・ペアやグループ活動において、キーワードをもとに、繰り返し話す練習をしている。	・机間指導で、既習表現を確認させる。
外国語表現の能力	・教科書の英語表現や既習事項を使って、十分な情報量で、相手に伝わるように工夫して話すことができる。	・教科書の英語表現や既習事項を使って、話すことができる。	・絵について説明する際に有効な英語表現を確認させる。

(3) 展開

	生徒の学習活動	教師の支援 【かかわりの場面】 ○発問 ◇留意点 ◆評価
導入 5分	1 あいさつ	あいさつをする。
	2 帯活動 (ペア活動)	あるトピックについて、ペアでやりとりさせる。 【ペアでわからない単語や表現は教え合いながら、活動する。】 ◆つなぎ言葉を使うなどして、ペアで対話を続けている。
	3 学習課題の把握	学習課題を提示する。
	課題 「お絵描きイベント」で子ども達が描いた絵について、英語で説明しよう。	
展開 35分	4 前時までの復習	既習内容の復習をさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ピクチャーカードを使った質問に答える。 ・絵について説明する際に有効な表現を確認する。 	<p>ピクチャーカードを使って、英語でやりとりする。 ピクチャーカードを見せ、 ○山本さんの職業は何か？2004年に何を始めたか？ この絵は誰が描いたものか？何を表しているか？ 【わからない表現はペアで教え合う。】</p>
展開 35分	5 「お絵描きイベント」で子ども達が描いた絵について、英語で伝える。(4人グループ)	モデルを示し、4文以上で伝える際に必ず盛り込む内容を確認する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を説明する際に盛り込みたいキーワードをマッピングする。 ・マッピングしたものをもとに、グループ内で話す練習をし、アドバイスし合う。 	<p>① どこの子が描いた絵か ② その絵が示しているものは何か ③ なぜそれが大切なのか ④ 聞いている人たちへの問いかけやその子が大切にしているものに対する自分の考えなど</p> <p>【グループ内で、互いに調べたり、教え合ったりしながら、マッピングする。】 【グループ内で、目線や声の大きさ、発音など、アドバイスをし合う。】</p> <p>◇ 文を書かずに、キーワードだけで発表させる。 ◇ 相手意識を持たせた上で、自分の考えを伝える練習をさせる。 ◆ ペアやグループ活動において、伝える相手を意識した声の大きさや発音、目線、内容を目指して、繰り返し話す練習をしている。</p>
終末 10分	6 数グループが前に出て、発表する。	数グループを指名して、発表させる。 ◆教科書の英語表現や既習事項を使って、十分な情報量で、相手に伝わるように工夫して話すことができる。
	7 振り返りを行う。	振り返りシートに記入させる。 ◇振り返りの視点を与える。(この活動を通して、どんな英語表現を使えるようになったのか、グループの仲間や他のグループの発表でどんな点がよかったか)
	8 あいさつ	

